

「主体的・対話的で深い学び」を通じ、

生徒の賜物を育む探究学習の教育効果に関する研究

－「卒業論文」を振り返る、15歳から28歳へのアンケート調査－

清教学園中・高等学校 南 百合絵 片岡 則夫 山崎 勇気

はじめに

清教学園中・高等学校では、図書館を使った探究的な学びのカリキュラムを中学1年次から構築している。本校図書館の愛称「リブラリア」から名称をとり、「リブラリア・カリキュラム」と冠した本カリキュラムは、2007年度に開始された。以降、内容を改善しつつ継続して、今年度で13年目となる。

実施初年度の生徒たちの年齢は、2019年現在28歳であり、社会に出て数年が経っている。そこで本研究では、「リブラリア・カリキュラム」が彼らの人生にどんな影響を与えているのか、履修者に振り返りアンケート調査を行い、探究学習の長期的な教育効果の検証を行った。本稿ではその概略を報告する。

1. 「リブラリア・カリキュラム」とは

「リブラリア・カリキュラム」とは、中学校3年間の総合的な学習の時間(1単位)で実施されている取り組みである。(図1)に示すように、読・書・算のスキルを中学1・2年次に身につけ、中学2・3年次で集大成となる「卒業論文」の制作を行う。

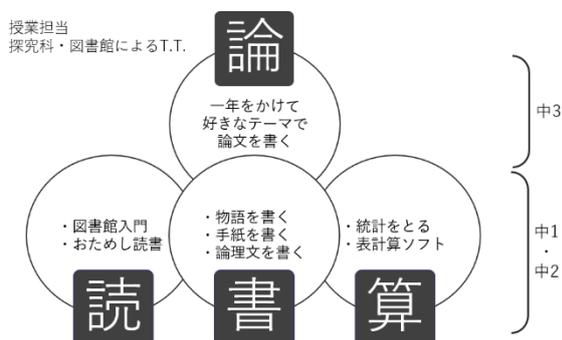


図1 3年間を通じた探究カリキュラム

2. 卒業論文 学びの道のり

卒業論文制作では、生徒一人ひとりが研究テーマ(問い)を決める。「自分は何に興味があるのか」「なぜ興味があるのか」といった、自ら研究テーマを設

定するという課題、それ自体からの問いかけを通じて、「自分とはどのような人間なのか」を問われる。そして、設定したテーマに関する文献を調査し、フィールドワークを行い、結論(答え)を導き出す。最終的に1万字を超える研究論文を制作し、他学年を招いて研究発表会を行う。そのような学びの道のりを、多様な蔵書を備えた図書館が支援している。

3. アンケート調査の概要

調査対象は下記2グループに分けられる。「在校生」グループには中学3年次に卒業論文を提出し、清教学園高校に在籍している生徒が含まれる(505名、有効回答数456名、悉皆調査、15~18歳)。「卒業生」グループには、中学3年次に卒業論文を提出し、現在は大学進学・就職等している卒業生が含まれる(1985名、有効回答数160名、任意調査、18~28歳)。これには2006年に終了した「連携コース」生(高3次に論文提出・関西学院大学に進学)も含まれる。「在校生」に対しては、学校にてWebアンケートによる全数調査を行った。「卒業生」に対しては、WebアンケートフォームへのURLリンクを記載したハガキを送付し、任意で回答を求めた。

4. 調査設計

調査テーマは「自由なテーマ設定による探究学習が、学習者のキャリアデザインに与える長期的影響の調査」とした。設問の観点は大きく2群に分けられる。回答者自身の授業経験を振り返る「授業経験群」【問10~17】と、現在の学習観を問う「学習観群」【問24~32】である。これらへの回答と相関を見て、カリキュラム履修者が現在、「学び」というものをどのように捉えているのかを明らかにした。

その他、カリキュラムを客観的に評価する設問「授業を自身の子どもに勧めるか」や、重要設問には回

答の理由を問う、任意の記述設問を設けた（文末「アンケート項目と観点」参照）。

さらに回答者属性間の比較として、現在高校卒業後のキャリアを考えている「在校生」と、既に進学・就職した「卒業生」の2つの世代間で比較し、卒業論文という取り組みがそれぞれの年代でどのように振り返られるのかを調査した。なお、選択式設問への回答は7件法を用いている。

5. 集計結果・分析

5-1. 「授業を自身の子どもに勧めるか」

まず注目したのは、殆どが肯定的に回答した【問20】「自身の子どもに授業を勧めるか」(図2)である。

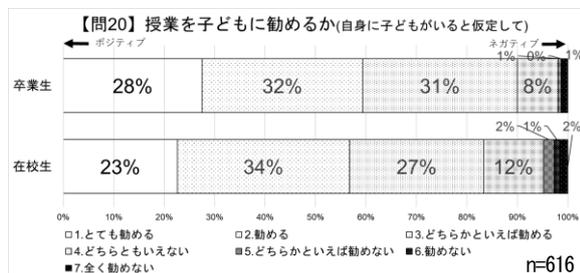


図2 授業を子どもに勧めるか

この質問は、自身の卒業論文の経過や成果にかかわらず、その学習過程が一般的に価値を持つか否かを尋ねた。卒業生・在校生ともに「子どもに勧める」が80%以上となっており、子の親として考える場合、探究学習はその価値が認められていることがわかる。

さらに【問21】では、【問20】の回答理由を自由記述形式で問うた。ここでは【問21】に回答しており、なおかつ【問20】の回答が「どちらかといえば勧める」以上の回答を「ポジティブ」と定義した。また【問21】に回答しており、【問20】の回答が「どちらともいえない」以下の回答を「ネガティブ」と定義した。その上で、【問21】の任意自由記述からキーワードを抜き出し、類型化を行った(図3)。

全体的にポジティブな回答が得られたが、とりわけ回答が集中しているのは「研究経験」に分類された回答(107件)である。履修者がこの授業経験を振り返る時、「自ら学び、新たな知識を生み出し、それを人に伝えるという一連の研究経験」が、授業を子どもに勧めたい最たる理由として挙げられた。

さらに「研究経験」に付随する形で、「テーマ選択」(興味を持っている事を学べる/自分で研究テーマを選ぶ)に類する回答が紐づいており、そこには「自己

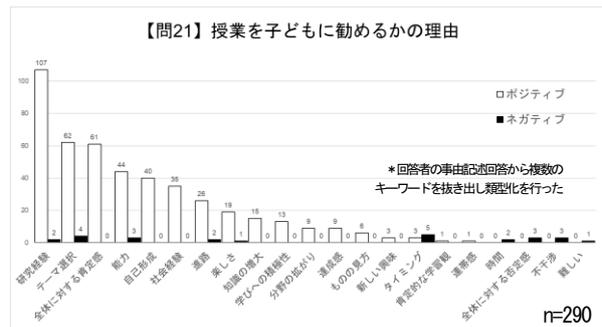


図3 「授業を子どもに勧めるか」の理由

形成」「進路」といったキャリア意識に関するキーワードが含まれていた。このことから、履修者にとっては「自由に研究テーマを選べる」ということに大きな意味があることがわかる。研究テーマを設定するという行為は、学習者が自身を内省することに繋がり、自己形成や進路にも結びつく。このことは以下の自由記述回答にも表れている。

「テストだけでは測りきれない、21世紀を生きるうえでの遅しさを身につける教科だと思うから」(高校1年生)「自分の興味があることを掘り下げていくと視野が広がり、学びに対する意欲が湧き出てきたため、とても大切な経験だった」(高校3年生)「『勉強ってやろうと思えば自分の力でできるんだ』ということを学べた。子どもにもそれを体験してもらいたい」(学部4年目以上)「問いを立てて、その答えを自分なりに見つけることができました。その過程は、生きていく上で必要な経験と考えています」(社会人4年目)

5-2. 「授業経験群」の回答分析

「授業経験群」と「学習観群」の設問については、在校生、卒業生と回答に大きな差が見られなかったため、両者を合わせた結果を以下分析する(図4)。

授業経験群の設問では、「授業の自己評価」「進路」「成長」の3つの観点からなる設問を設け、授業における履修者自身の経験を問うた(文末「アンケート項目と観点(観点①、②)」参照)。回答者の主観的な自己評価を問うので、何らかの要因で卒業論文の制作が上手くいかなかった者からの回答も含む。しかし全体として、授業経験については概ねポジティブに捉えられていた。とりわけ、研究テーマが自らの興味・関心に根差したものだだったかを問う【問10】では92%が、授業での過ごし方を尋ねる【問11】では88%がポジティブな回答結果となった。

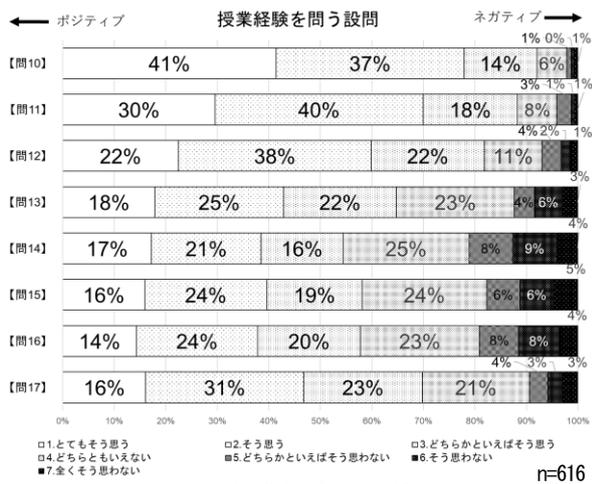


図4 授業経験群 回答

5-3. 「学習観群」の回答分析

学習観群の設問では、履修者が現在「学ぶ」という行為をどのように捉えているかを問うた(図5)。そのため卒業生に対しては、高等教育機関での自律的な学びや、社会人としての学び、学校から離れたのちの生涯学習的な観点から、「学ぶ」という行為に対する現在の考え方を問うたことになる。

結果を見ると、総じて学習に関する高い肯定感が示された。たとえば【問24】「自分には学ぶべきことがたくさんある」はポジティブな回答が100%、【問25】「知らないことを学ぶのは楽しい」では97%、【問29】「学んでみたいことがある」では92%であった。このことから、履修者の多くが現在もなお、「学び」に対する高い肯定感を持っていることがわかる。

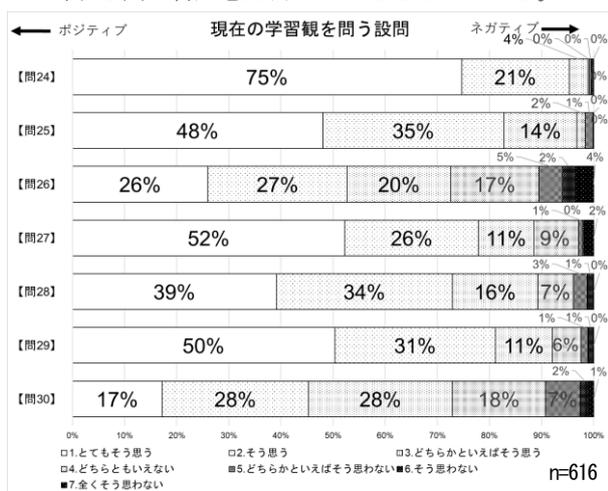


図5 学習観群 回答

また本校の探究学習は、カリキュラム構築と共に図書館と司書という物的・人的インフラ整備にも尽力してきたので、設問【問31】【問32】を用意した。

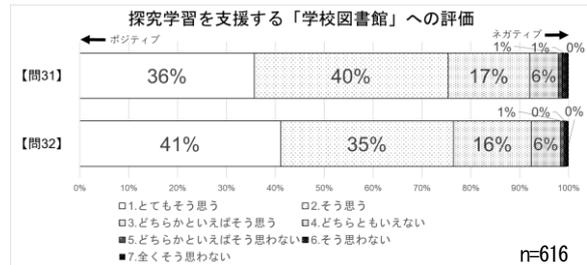


図6 学校図書館・学校司書への評価

探究的な学習における、司書からのサポートやレファレンスの重要性が明らかになった(図6)。授業経験が現在の学習観に与えた影響を問う【問34】の自由記述でも、司書や図書館への言及が目立った。つまり探究学習は、学校図書館と学校司書抜きには語れない事が裏付けられた。以下にその一例を示す。

「自分の疑問や投げかけに対して、その分野の本を紹介してくださったり、丁寧なアドバイスを頂いた。また自分の「知りたい」が見つかる図書館という素晴らしい環境があったからこそ、今になっても卒業研究の経験が濃いものだったと思えるから」(高校3年生)「今の職業柄、日々分からないことや知らないことが溢れていて、そんな中でも毎日進んでいます。忙殺されそうな日々ですが、休みの日には職場の図書室で勉強したり、参考書を開いたり、というのは振り返れば清教のリブラリアで過ごした時間が有意義なものだったからだと思います」(社会人2年目)

5-4. 「授業経験群 × 学習観群」の相関を見る

さらに授業経験と学習観の相関関係を考察する。ここでは選択式回答の順序に係数を掛け、最大100ポイントの値で換算し数値化を行った。

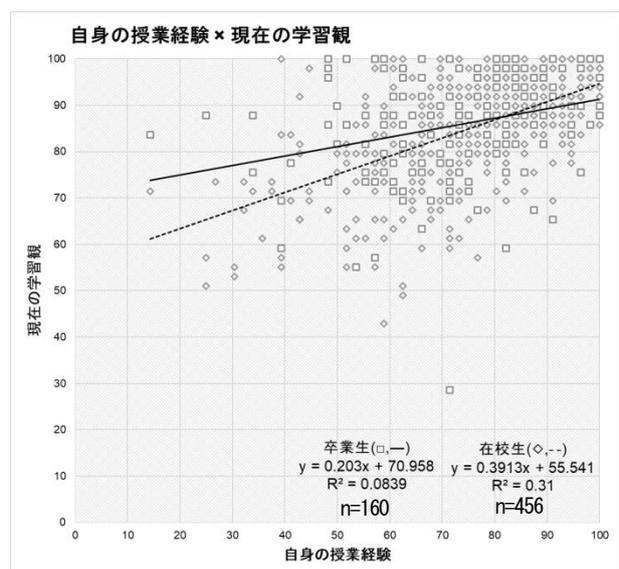


図7 授業経験群 × 学習観群 相関

この結果相関係数は、在校生が0.556(正の相関)、卒業生が0.289(弱い正の相関)となった(図7)。またサンプル数は異なるが、在校生・卒業生ともに似た散らばりを見せており、卒業生への任意調査の妥当性も示された。このことから、在校生においても、探究学習の効果は将来的に継続すると推測された。

事前の予測では、任意調査である卒業生に、より強い相関が出るとしていた。授業への思い入れが強く出ると踏んだからだ。しかし予測に反し、在校生の側に強い相関が出る結果となった。これは、卒業生が学校を卒業し、社会に出て経験を積み、授業経験が相対化された故と推測される。

6. まとめ

アンケート調査を行うにあたり、特に重視した設問が【問10】【問20】である。この2問に対する回答がポジティブになるような経験が、のちの学習観を支えるからだ。【問21】の記述からも「研究経験」と「テーマ選択/自己形成/進路」といったキーワードの結びつきが多くみられた。これにより、自由にテーマを設定するという授業設計が、ひいては「自分は何者か」という問いを、学習者に問うていることがわかる。探究学習が学習者にとってよい経験と

なるか否かは、学習者自身が学ぶテーマを探すと、自らを内省する機会の有無にかかっているのだ。

授業者はこれまで、自由なテーマ設定による探究学習が、皮膚感覚において「よい」と信じてきたが、今回のアンケート調査により、それが裏付けられた。探究学習とは、単なる能力の育成にとどまらない、長い射程を持った学習である。学習者自身の芯となる、賜物を育む教育効果が期待される。

7. 今後の展望

記述の類型化や、追加インタビュー調査(本稿未掲載)により、キャリアとの関連が深い事が示唆された。今後は質的調査への発展、さらに、本カリキュラムを履修していない学習者グループや、「在校生」「卒業生」の2つの世代間での詳細な比較を行いたい。

8. 謝辞

アンケート設問を作るにあたりアドバイスを頂いた家島明彦氏(大阪大学)、田邊則彦氏(ドルトン東京学園)、本研究をまとめるにあたり助言を頂いた溝上慎一氏(桐蔭学園)、及び研究に協力して下さいた在校生と卒業生の皆さまに深く感謝を申し上げる。

設問内容		観点①	観点②
【問1】	現在の年齢をお答えください	回答者属性	
【問2】	性別をお答えください		
【問3】	卒業もしくは在籍している大学の、学部学科(あれば専攻も)をお書きください。清教学園在校生は志望の学部・学科(あれば専攻も)をお書きください		
【問4】	現在、社会人何年目ですか。大学(院)何年目ですか。大学(学部)何年目ですか。高校何年生ですか。		
【問5】	清教学園高校何期生ですか(トップページ(前ページ)で、期数・担任・研究キーワードを掲載しています)		
【問6】	さしつかえなければお名前をお答えください		
【問7】	自分の研究テーマや研究内容を覚えている		
【問8】	さしつかえなければ、覚えている範囲で研究テーマを教えてください		
【問9】	自分自身の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」で行ったフィールドワークを覚えていますか		
【問10】	研究では興味や関心のあるテーマを学べた		
【問11】	授業では充実した時間を過ごした		
【問12】	自分自身の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」の経験は全体として評価できる		
【問13】	自分自身の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」をきっかけに、まわりの人々の生き方や仕事に関心をもつようになった		
【問14】	自分自身の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」をきっかけに、自分の将来や進路を考える資料や人とのよい出会いがあった		
【問15】	自分自身の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」の機会は、自分の将来や進路選択によい影響を与えた		
【問16】	自分自身の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」は自分がどのような人間かを考えるよいきっかけになった		
【問17】	自分自身の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」の経験は自分の人生によい影響を与えている		
【問18】	さしつかえなければ、(問17)のように回答した理由を自由にお書き下さい。(例:志望大学、学部、学科の選択/志望する職業分野など)		
【問19】	自分自身の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」で最も印象に残っていることを教えてください	客観的評価	
【問20】	(自分に子どもがいると仮定して)中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」のような経験を子どもに勧めますか		
【問21】	さしつかえなければ、(問20)のように回答した理由を自由にお書き下さい		
【問22】	大学生以上の方のみお答え下さい。中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」で身につけたスキル(コンピュータ、日本語入力等のスキル)は、いつ頃まで清教生以外の人々と比較して優位に感じていましたか	学習観群	
【問23】	大学生以上の方のみお答え下さい。中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」で身につけたスキル(論文作成等の技術)は、いつ頃まで清教生以外の人々と比較して優位に感じていましたか		
【問24】	自分には学ぶべきことがまだたくさんある		
【問25】	知らないことを学ぶのは楽しい		
【問26】	大学の卒業論文や研究室活動は楽しかった、または楽しんだ		
【問27】	大学での学びは充実していた、または充実させたい		
【問28】	自分で研究テーマを決めるような学びの機会は楽しい		
【問29】	自分には学んでみたいことがある		
【問30】	未知の分野と出会っても、自分で調べて何とかできる		
【問31】	図書館は役に立つ		
【問32】	図書館司書は頼りになる		
【問33】	上記の「学習観」に関する問い(問24-問32)を選択した理由には、中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」の経験が影響していますか		
【問34】	さしつかえなければ、(問33)のように回答した理由を自由にお書き下さい		
【問35】	あなたにとって中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」はどのような経験でしたか。授業の取り組みへのご意見やご感想も含めて、率直にお書き下さい		
【問36】	当時の中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」の授業をより良くするとしたら、どのような提案がありますか		
【問37】	中学「卒業研究」、あるいは卒業論文「タラント」での経験についてインタビュー調査を計画しています。関心のある方・ご協力いただける方は、連絡のとれるメールアドレスをお書き下さい		

アンケート項目と観点